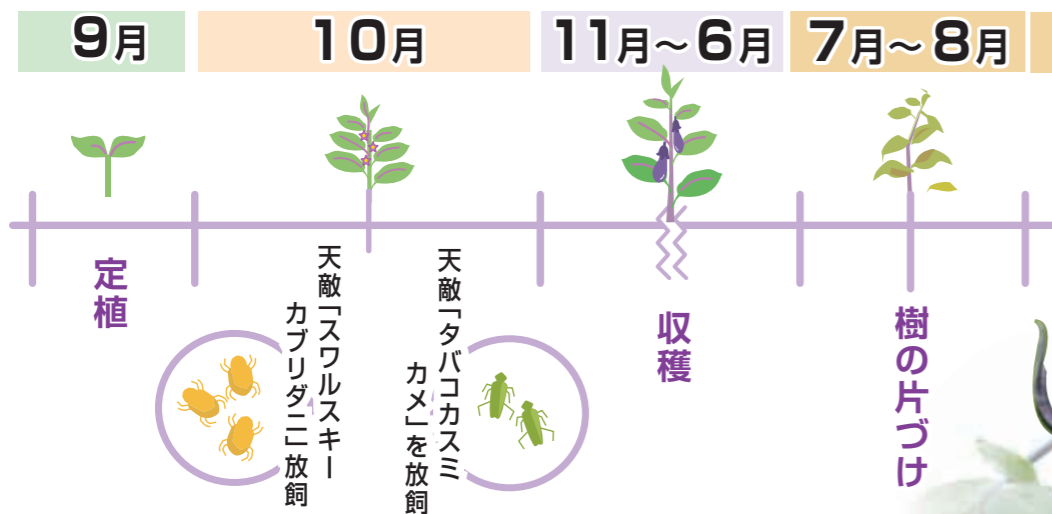


促成ナスの栽培スケジュール



PC筑陽▶

新品種の導入

促成ナス部会では新しい品種「PC筑陽」という品種の栽培に積極的に取り組んでいます。「PC筑陽」は高い単為結果性※を示すため、専用の薬液を使ってホルモン処理をしたり、昆虫に花粉を運ばせる受粉作業の手間やコストが省けます。トゲも少ないため、管理・収穫・袋詰め等の作業をスムーズに進めることが可能です。また、秀品率が高く、幅広い料理に使えるため、農業者の所得向上にも繋がっています。

※受粉作業を行わなくても着果・肥大すること。

地域にPR

促成ナスを知ってもらうために、毎年4月中旬に植木管内5か所の小学校へナスを寄贈しています。



減農薬や品種にこだわる農家・消費者にやさしい農法

“JA鹿本植木基幹支部促成ナス部会”は平成4年に発足し、現在部員は15人。281aの圃場で促成ナスを栽培しています（平成30年産）。植木地区はJA鹿本管内で唯一部会を発足し促成ナスの栽培に取り組んでいます。

※ “天敵”を使って減農薬

※天敵とは、農産物の害虫を駆除するダニなど。

安全・安心で高品質なナスを生産するため、害虫駆除にあえて天敵の虫を利用する「生物農薬」を取り入れ、減農薬に努めています。約6年前から導入を始め、部会員の7～8割が実践するなど、部会を挙げて取り組んでいます。農薬を減らしても安定した収量を確保し、安全・安心なナスを消費者に届けています。



▲天敵を放飼する岡本部長

部会の天敵使用率

7～8割に

増

素早く増殖するが冬には活動が鈍くなる「スワルスキーカブリダニ」を秋口に、食欲旺盛で幅広く補食する「タバコカスミカメ」を10月中・下旬に放飼しています。2種類の天敵のダニを放飼することで、お互いの欠点を補いながらシーズンを通して害虫を防除できます。